令和６年度訪問型家庭教育支援推進事業 第４回専門講座

１．日　時　令和７年３月７日（金）　１３：３０～１６：００

２．場　所　串本町役場　２階　会議室４・５

３．参加者　２９名

４．内　容

（１）講演「今、なぜ家庭教育支援？　～つながることの大切さ～」
講　　師　和歌山県教育委員会　委員
湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」リーダー
上田　さとみ　氏

（２）ミニシンポジウム　「これからの家庭教育支援事業について、ともに学び合う」
パネリスト　日高町教育委員会　教育課　社会教育主事
日高町家庭教育支援チーム「えがお」事務局
橋谷　充佳　氏
古座川町家庭教育支援チーム「さくらファイブ」支援員
嶋原　敬子　氏
アドバイザー　上田　さとみ　氏

□講演「今、なぜ家庭教育支援？　～つながることの大切さ～」

今、なぜ家庭教育支援？

・子育てを支える状況や環境、社会の変化
・人と人のつながりではなく、つながっているのは親たちもこどもたちもスマホ
・子育て家庭の孤立
・地域の者が、地域のこどもとして見守り育て、地域社会全体で支えていく必要性

何をどうするの？

湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」の取組をとおして

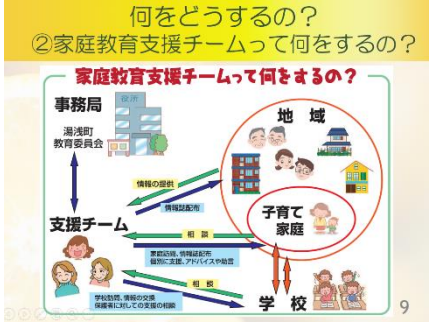
◇子育て・家庭教育支援員の構成

＜家庭教育支援リーダー、事務職員・家庭教育専門員、アドバイザー、訪問支援員＞

↓

『家庭教育支援リーダーの役割』

・問題のアセスメントとプランニング
・学校対応、保護者対応（訪問、面接）
・関係機関との連携　等



◇「とらいあんぐる」の主な活動

・全戸家庭訪問
・講座の開催
・子育て・家庭教育情報誌『すまいる』等の配布

} 家庭の安定＝こどもの健やかな成長

まとめ

・地域の力と家庭教育支援の３つのキーワード
　<いつでも、どこでも、いつまでも>
　<気づく（見つける）、見守る（寄り添う）、つなげる（関係機関につなげる）>
・「学校がよくなれば地域がよくなる　地域がよくなれば学校がよくなる」

□ミニシンポジウム　「これからの家庭教育支援事業について、ともに学び合う」

日高町家庭教育支援チーム「えがお」・・・令和６年度から活動開始（１年目）

◆訪問型家庭教育支援を知ったきっかけ

・社会教育主事講習で訪問型家庭教育支援事業を知ったこと

◆取組を始めた時の思い

・乳幼児健診の待ち時間に保護者がこどもに見せている「スマホ」を「絵本」に替えたい！
・学校の先生方の保護者対応の時間を少しでも減らしたい！

◆今年度の取組をとおして

・２回目の訪問で…
　→「学校に言うほどじゃないのだけど…」という相談があり、訪問型をやってよかったなと実感した。
・やってみてわかったこと
　→その都度、チームで協議をして臨機応変に対応してよいことがわかった。
・来年度に向けて
　→チーム会議の内容やもち方について、会場の他チームの方のお話を参考に工夫したい。

古座川町家庭教育支援チーム「さくらファイブ❀」・・・令和２年度から活動開始（５年目）

◆訪問の際に大切にしていること

・とにかく話を丁寧に聞くこと、寄り添うこと

◆今年度の訪問で感じたこと

・話が止まらず、気がついたら予定時間をオーバーしていたご家庭もあった。これまで傾聴に

徹してきたことで、保護者の方と支援員の信頼関係ができてきたのかなと感じた。

◆今、気になっていること

・支援員同士の交流（より気心の知れた仲に！）

「とらいあんぐる」上田氏の講評

・日高町の担当者の方が悩みに悩んで進められている様子がよく分かりました。
・「スマホ」を「絵本」に、については遠回りで大変だが、大切なことだと思います。
・始める前は不安なことも多いが、案外、やり始めれば何とかなるものですよ。
・成果が見えにくいこともあるかもしれないが、スモールステップで進めることが大事だと思います。

□参加者の感想より

講演について

・共感することの大切さ、気づくことの大切さをあらためて学ばせてもらいました。
・大変勉強になりました。長年にわたって訪問型家庭教育支援に携わっていらっしゃって、小さい頃からこどもの異変、家庭の困り事に気づく事が大切だと実感しました。訪問支援の活動は結局、自分のためだとのお話に共感しました。学校がよくなれば、地域がよくなる、地域がよくなるということは自分たちが住みやすい社会になるということ…すばらしいお話を聞かせて頂きました。すべてつながっていると思いました。
・上田先生のこれまでの経験をもとに、湯浅町の訪問型家庭教育支援事業の取組や経緯を分かりやすく伝えていただきました。家庭訪問だけでなく様々なイベントも実施されていておどろきました。また、支援員の責務や役割についても丁寧に話してくださり、とても良かったです。
・自分たちが家庭訪問するにあたり、気をつけていること、家庭教育支援員として学んできたことを再確認する機会となりました。お話を聴きながら「そうそう」とうなずくばかりです。お母さんを１人にしないこと、お父さんも１人にしないこと。地域の中で安心できる「おばちゃん」になっていきたいです。
・家庭教育支援の仕組みの校長会や教職員への周知は大切なこと。（盲点でした。）
・地域の力と家庭支援について、“気づく”→自分で気づこうとしないと気づかないことも多いというお話が印象的で、こちらから相手のことを知ろうという気持ちが大切だということを改めて感じました。講評の際の、「自分がなんとかしないと」と思いすぎないこと（指導しがちになる）、成果を求めるのではなく、「相手のための前に、自分のためにやっている」と思うことが大事という話も印象に残りました。
・地域社会の希薄化、家庭教育力の低下を地域の力で何とかしようという非常に困難な課題に取り組む力を感じました。
・様々な目線、思い、考えをお聞きすることができ、とても勉強になりました。
・家庭教育支援の大切さがとてもよく分かりました。持ち帰って共有したいと思います。
・「つながる」から「つなげる」へ、という言葉が印象に残りました。いつまでも手をかける

のではなく、少しずつ他機関につなぐなどの支援を考えていきたいと思いました。

ミニシンポジウムについて

・この活動は立ち上げに困難が伴い、課題も多いが、それよりも重要なのは、継続し活動のビルドアップをする事です。市町の実情をふまえた独自の効果的な活動をめざしたい。
・とてもいいキャラクターの方々、たのしい雰囲気でお話をして下さり、よくわかりました。広がっている事業なのだと実感しました。その地域に合ったことでよいのだと思いました。それぞれが、その思いや続けている熱い思いが伝わりよかったです。
・丁寧に聞く、傾聴の大切さを感じました。皆さん、それぞれいろんな苦労をしながら、続けられてきたのだと痛感しました。支援員さん同士の交流も大切だと思います。家庭教育支援事業が全国でも進んでいるということに、すごいと思いました。
・肩ヒジはらず、自分が楽しめるようにやっていきたいと思います。
・孤立せず安心して子育てできる町にするため今やっている活動は必要なのだと再認識しました。いろんな町の話が聞けて良かったです。
・現場の生の声を聞かせていただいて、とても参考になりました。訪問は「聞くに徹する」ということを意識されていると聞き、そうすることで少しずつ訪問した時の信頼関係を築かれているのだと思いました。学校とのパイプ役、学校や行政とはまた違う支援者がいることは、“少し気になるけど、聞いていいのかな”などの小さな悩みをもつ方にとって心強いと感じました。私は福祉の分野で訪問する事も多いので、一緒に連携し、地域のこどもたちとその家族が楽しくすごすために頑張りたいと、力を分けていただきました。
・日高町、古座川町の発表を伺って、それぞれのチームは工夫され家庭教育支援にあたっておられることがよく分かりました。チームの会を定期的に行うこと、話しやすい雰囲気をつくることの大切さを感じました。学校に言いにくいことも聴いてくださるだけでも安心につながりますね。成果を求めすぎず、ほんわりと…とても参考になるお話でした。
・訪問型家庭教育支援を最近はじめたチームの方の話を聞かせていただけたのがすごくよかったです。行政の立場として、いろいろな立場の方の本音を知っておくことはとても大切だと思います。
・日高町の橋谷さんの乳幼児健診で待ち時間にスマホを見ているものを絵本に替えてやろうという気持ちからスタートしたという話はとても心が熱くなりました。何かを始めるときには、やはり、なんとかしたいという思いをもつことが大切だと思いました。
・どの町でも来てくれない人、本当に来てもらいたい人たちへの働きかけをどうするか、というところへの課題は共通している。行動をおこすきっかけとなる人の思いが強いと動いていく流れがよく分かりました。
・色んな方向からの取り組み方があることがわかった。その地域社会に合った取り組み方があるのだと思うが、あまり深く考えずに取り組む方が良いように感じた。